

診療情報管理セルフチェック

あなたの病院は、どのタイプ？ | 日々の診療情報管理で思い当たる項目にチェックしてください。

該当する項目の [] にチェックを入れ、下部の判定目安で現在の状況を確認してください。

01 | 情報管理のお悩み

- [] Excelや紙で管理している情報が多い
- [] 必要な患者情報を探すのに時間がかかる
- [] 複数のシステムを行き来して情報を確認している
- [] 同じような情報を何度も入力している
- [] 過去の診療情報を探すのに手間がかかる

02 | 業務負担のお悩み

- [] カルテ監査に時間がかかる
- [] 退院サマリーの完成状況を把握しにくい
- [] がん登録の作業に時間がかかる
- [] DPC関連の情報収集・登録が大変
- [] 統計資料や院内資料の作成に時間がかかる

03 | 「人」に関するお悩み

- [] 診療情報管理業務が担当者の経験やスキルに依存している
- [] 担当者が変わると業務の引き継ぎが大変
- [] 業務の進捗状況をチームで共有しにくい
- [] 忙しい時期に業務が集中してしまう

04 | これからのお悩み

- [] 電子カルテの更新・リプレースを予定している
- [] 電子カルテが変わった後も過去の診療情報を活用したい
- [] 診療情報を単に保管するだけでなく、もっと活用したい
- [] 今後、診療情報管理業務を効率化したい
- [] 限られた人員でより多くの業務に対応したい

チェック数で分かる診療情報管理タイプ

- 0～2個 | 「今は困っていない」
現状に大きな問題はないかもしれません。電子カルテ更新や担当者異動に備え、運用を整理しておく心安いです。
- 3～5個 | 「業務負担が気になる」
カルテ監査・退院サマリー・がん登録・DPC・統計資料など、定期業務の見直しポイントです。
- 6～9個 | 「情報が分散している」
情報を探す・集める・整理する時間が負担になっている可能性があります。検索・集計しやすい環境を検討しましょう。
- 10個以上 | 「診療情報管理を変えたい」
複数の課題が重なっている可能性があります。診療情報を一元管理し、業務につなげる仕組みも選択肢です。

e-Medinetという選択肢

- 診療情報を「管理する」から「活用する」へ
- 病歴管理・がん登録・カルテ監査・退院サマリー・DPC支援・外来診療録・臨床評価指標など、診療情報管理士の業務を支援します。
- 電子カルテを更新しても、過去の診療情報を継続して参照・活用できる環境を。自院の課題を把握し、診療情報管理業務の見直しにお役立てください。